

実力100% 出しとらんかったやろ！ ー合唱コンクールリハーサルよりー

15日の月曜日に学年の合唱コンクールがあった。

いつもクラスで聴いていた担任としては、うーむ、君たち、実力100%出しとらんかったやろ！と思った。

実力100%出さない場合には2通りある。

場合1. これまで十分練習してきたけど、場面が変わる、緊張する、人前である、直前の調整不足……などで、出せる実力も出せるところまで出せずじまいだった場合。

場合2. これまで十分練習していなかったのだから、実力はあるにもかかわらず、そもそも実力100%までこれまで一度もいかず、だから当然実力100%まで出せなかった場合。

1ならまだ許せるが、2なら許せん！と言いたいところだが、君たちの場合は1である。何やっとなるじゃ！と担任は言いたい。それはきっと自分たちでもわかっていることであろう。**Master Life**の中にもいくつかそんな感想があった。今出せる実力100%出さんかいね。これって、部活動の大会なんかでも一緒やろ。とにかく普段一生懸命練習しなくては、本番は練習以上のものは出ないんだよ。出せても練習の時に出した力まで。そこまで出せたら実はすごいことになる。だから「場合1」の君たちの場合には、まだまだ可能性があるわけだから、まあよしとしよう。あとは本番で実力100%出すことである。

あと練習できるのは6日間である。目指せ最優秀賞！である。

なお、連日お客様を呼んでは練習している。(何しろ、お客様がいないと燃えないらしいみなさんなのであるが、毎日いろいろな方を呼びに行くのも大変なのであるぞ。)そして、一言ずつの批評もいただいている。そのことばもちゃんとかみしめて練習しよう。

ちなみに、**4組はどんどんうまくなっている。**それは毎日聴いている担任がよく知っている。週ごとに上手になっている。

ついに指揮者も楽譜なしで指揮をするようになった。これもみんなの上達にあわせてである。

ちなみに、もう一つ、荒川先生はプロであるとやはりつくづく感心しているのが毎週火曜日の業後練習である。音楽の授業のあと格段にうまくなっているのが、素人の担任でもわかる。男子のハリのある声は日々聴かせてもらっていた。時には女子のパートがかすんでしまうくらいだった。でも、2日の業後練習で、女子の旋律を再確認した担任だったのだ。女子が自信を持ってしっかり声を出すと、こんなハーモニーになるのかと再確認したのだった。音楽の授業のあとで聴く君たちの歌声は確実に前回よりもよくなっている。教えてもらったことを着実に自分たちのものにしていくといえる。この上り調子で本番を迎えるように。